

生活単元学習指導案（細案）

平成31年2月1日 金曜日 2校時（9:40～10:30）
中学部3年生 男子3人 女子3人 計6人
場 所 中 学 部 3 年 教 室
指 導 者 今 村 広 海 (CT), 東 屋 敷 卓 (ST)

1 単元 「幼児とあそぼう～楽しいおもちゃづくり～」

2 単元について

(1) 単元設定の理由

<生徒の実態>

本学級の生徒は、これまで、中学校との交流及び共同学習で安全に気を付けながら一緒に調理活動をしたり、ふとくフェスティバルにおける作業製品の販売をしたりと、ものづくりを通して地域の人々と交流し関わりを広げてきている。また、日常的に日中一時支援等を利用しており、低学年の児童との関わりはあるが、兄弟以外の幼児と関わる機会は少なく、2学期末に行った近くの保育園との交流で実際に幼児と関わった際には、幼児に合わせて、いつもより力を抜いて追い掛けっこやボール遊びをして遊ぶ姿が見られる一方、一人遊びに終始したり、幼児から近づいて来ても自分から離れたりして積極的な関わりをもてない生徒もいた。これは、年長者として小さい子との関わりを意識できる生徒もいるが、幼児の特徴が分からずに具体的にどのような遊びや関わりをしていいかが分からないためであると思われる。昼休み等に遊ぶ際には、友達とサッカーや追い掛けっこ、自転車乗りなどをして過ごす生徒がいる。その際、空気が入っていないタイヤの自転車やボールで遊んでも気付かないか、気付いてもどうすればいいか分からずそのままにしてしまう生徒がいたり、そもそも友達と関わらずにパソコンでの動画鑑賞や図書室での読書など一人で過ごす生徒もいたりする。このことは、タイヤやボールには空気が入っているというものの仕組みに気付いていなかったり、空気が入っているボールが弾みやすいなど科学的知識をもっていなかったりすることに加え、ものを通して人と関わる楽しさを十分に味わっていなかったりするためではないかと考えられる。更に、地域の公共施設について調べる学習の中で、本校の近くに子育て支援施設があることを知ったが、具体的にどのような役割があるのかまでの理解は不十分であった。これは、自分が利用しない施設については、興味や関心がもてず、知りたいという気持ちがわかないことが原因であると考えられる。

<単元の意義・価値>

以上のような実態を踏まえ「幼児とあそぼう～楽しいおもちゃづくり～」を設定した。本単元では、近隣の保育園や施設の幼児と交流する機会を設定することで、地域の保育所や子育て支援施設の役割について知るとともに、実際に幼児との交流を通して幼児の特徴に気付くことができる。さらに、調理学習や作業学習で、誰かに食べてもらうことや販売を目的とした製作に取り組む中で育ってきた、ものづくりの喜びを味わい、もっと上手に作りたいという思いを生かすこともできる。幼児にとって安全とはどのようなものか考えながら、動くおもちゃや簡単な実験装置を製作する活動を設定し、道具を安全に使用する力を更に高めるとともに、水や空気など、物質やエネルギーについて考える学習を行うことで、科学的な知識を身に付けることもできると考える。

<ねらい>

そこで、本単元では、水や空気を熱したり、冷やしたりすることで温度や状態の変化、体積との関係を調べて、表にまとめ、水や空気の性質を利用した、幼児と一緒に遊ぶためのおもちゃを、安全に気を付けて製作することができるようにする。また、タブレット端末等を活用し幼児が活動する地域の施設について調べ、作ったおもちゃで幼児と一緒に遊ぶ活動を通して、水や空気の性質に気づき、その面白さや不思議さを伝えたり、幼児との関わり方を工夫したりすることができるようにする。

<指導観>

具体的には、全授業の導入時に、幼児と交流した際の写真を提示し、単元を通して幼児と関わることに意識できるようにしたい。一次では、調べ学習を行うことで、幼児のための地域の施設等の役割や活動内容について知ることができるようにする。また、2学期に実際に関わった際の動画や画像を見て振り返ったり、自分の幼児期の写真等から幼児期について思い出したりすることで、幼児の特徴を考えるヒントにし、関わり方についての工夫を考えることができるようにする。二次では、氷が溶ける様子や、水が沸騰する様子などこれまでに経験していることを確認したり、実際に目の前で変化する現象を実験で示したりし、安全に留意しながら体験的に味わったりできるようにする。また、水や空気の性質を利用したおもちゃを幼児に向けて製作する学習を行う中で、楽しみながら学習に取り組み、製作に必要な材料や道具を正しく使用できるようにする。製作したおもちゃを繰り返し使用し、その動きの違いから、水や空気の状態の変化に注意を向けられるようにしたり、水や空気の温度や体積を数値化し表やグラフに表すことで変化をより捉えやすいようにしたりする。三次では、ペアやグループで遊ぶ活動や実験を繰り返し、実験の仕方や面白さ、不思議な点などに気付くようにし、互いに意見を深められるようにする。

<展望>

単元における実験的な活動や製作活動を友達と一緒にを行うことで、考える楽しさ、作り上げる、楽しさ発見する喜びなどを感じることができるとともに、科学についての知識を得ることでより安全に暮らしたり、身の回りの疑問について考えようとしたりする態度が育つと考える。また、地域における幼児との関わりを通して、もっと人と関わりたいという思いや相手のことを考えて関わる力を高め、新学期の新しい環境でも落ち着いてスタートが切れるのではないかと考える。

(2) 生徒の実態

観点 生徒	人との関わりについて 【職業・家庭（家庭分野）】	地域の施設についての理解や利用 【職業・家庭（家庭分野）、社会】
U. K o h (3年, 男)	特定の友達の名前を呼んだり、自分が求める決まった反応を求めて何度も同じことを言ったりすることがある。教師や友達の呼び掛けに対して返事をしたり、簡単な質問に単語で返答したりすることができる。言葉掛けの際は、英語で話し掛けた方が理解力が高く、指示が通りやすい。休み時間は、友達と関わるよりも、一人で本を読んだり音が出る玩具で遊んだりして過ごすことが多い。	施設の役割を理解するまでには至っていないが、障害者自立交流センターや環境未来館などの施設の名称を知っており、そこで自分がどのような活動をしたことがあるかを答えることはできる。週1回は学校近くのプールを利用しており、落ち着いて利用しながら地域の人と接することができている。休日には家族とバスや電車を利用して出掛け、図書館等を利用することも多い。
U. K o t (3年, 男)	自分の身体や持ち物への、他人による物理的接触を苦手としていたが、徐々に気にすることが少なくなってきた。落ち着いている状況では、教師や友達の簡単な言葉掛けに応じ、行動したり言葉を返したりすることができる。友達と一緒に行動が取れなかった場合などに、かんしゃくを起こすこともあるが、友達と一緒に遊ぶことを好み、追い掛けっこに参加したり、ボール遊びをしたりして休み時間を過ごしている。	1学期からの学習を通して、学校周辺の公共施設について実際に利用することで、その名称やそこでできる活動などを覚えることができた。初めての場所でも利用方法を確認したり、事前に禁止事項を約束したりすることで、落ち着いて施設等を利用することができる。地域の人と接する機会は多くはないが、父親と家の近所の祭りに出掛けたり、プールを利用したりすることもある。
H. S (3年, 男)	年上には丁寧な言葉遣いをしたり、年下には優しく話し掛けたりすることができる。自分にとって納得がいけない状況でも、周りを意識し、自分を落ち着けるような思考をすることで、落ち着いた対応を取ることができるようになってきている。休み時間は、勉強をして一人で過ごすことも多いが、友達と遊ぶことも好きで追い掛けっこやバドミントンをして過ごすこともある。	地域について調べる学習の中で、学校の近くに新しくできた施設について、そこで行われている活動や役割を調べ、理解することができている。バスによる登下校に加え、週2日は、水泳を習いに近くにあるプールを利用したり、休日には、家族と自転車を利用して様々な場所に出掛け、科学館や環境未来館を利用したりと、家族や地域の人と接する機会も多い。
U. M (3年, 女)	単語がスムーズに出てこない場合もあるが、簡単な言葉であれば会話によるやりとりが可能である。初対面や慣れない人と交わる際は、緊張から落ち着かなかったり、ケラケラ笑ったりすることもあるが、慣れた人には、食事のことや英語のことなど好きな話題を自ら話し掛けることも多い。世話を焼くことが好きで、同級生よりも年下との関わりを好む傾向がある。休み時間には、小学部の児童と遊んでいる。	学校での教育活動に加え、利用する放課後等デイサービスの療育の中で、地域の施設等を利用することも多い。施設等の役割を理解するには至っていないが、その施設の名称やそこでできる活動を答えることができる。また、放課後等デイサービスが行うイベントにも積極的に参加し、接客を通して地域の人と接することも多い。
U. K i (3年, 女)	自分の興味があることを文脈に関係なく一方的に伝えることも多いが、慣れた人と接せる際は、一語文で音声言語によるやりとりが可能で、ジェスチャーを交えたり、筆談を行ったりすることでより確実にやりとりができる。また、笑顔で冗談やいたずらをするなど他人と関わるのが好きである。特に、特定の男子生徒や男性教師との関わりを好み、一緒にトランプをしたり、バドミントンをしたりして休み時間を過ごしている。	赤ちゃんに興味があり、1学期の学習の中で本校の近隣に保育園や子育て支援施設について調べた。実際に学校周辺を散策した際にも、ジェスチャーで赤ちゃんを示す姿が見られた。本校の教育活動の中で、利用した公共施設を覚えており、そこでできる活動等を答えることができる。また、施設を落ち着いて利用することができる。習い事の発表会や地域の祭りなどにも出掛け、地域の人と接する機会も多い。
H. Y (3年, 女)	保育士になりたいという夢をもち、弟妹がいることもあり、小さい子と関わることに慣れている。言語によるやりとりが可能である。自分への自信のなさから、失敗を恐れて後ろ向きな発言をすることもあるが、みんなのまとめ役として、学級や学部で友達に積極的に言葉を掛けたり、優しく教えたりする姿が見られる。休み時間は、パソコン室で好きな動画を見て過ごすことが多い。	1学期の調べ学習でも、公共施設について積極的に調べ、その名称を覚えそこでできる活動や役割について知ることができた。地域の人と接する機会は多くはないが、学校の教育活動で、学校周辺の公共施設を利用したり、家族と家の近所の公共施設を落ち着いて利用したりすることができている。休日は、日中一時支援を利用し、様々な公共施設を利用している。

科学的なものの見方や考え方 【理科】	ものづくりの様子 【職業・家庭（職業分野）】	授業の様子
身の回りに起こる様々な現象に対して、「なぜ？」と感じることは難しいが、例えば、葉っぱが枯れたり、果実が熟したりなどの変化には敏感で、気にする様子が見られる。また、窓に付いた結露やコップについた水滴を自分のハンカチで拭こうとするなど、身の回りに起こる現象を気にする様子は見られる。	手先が器用で、動物の切り絵を得意としている。使用方法を視覚的に示すことで、道具を安全に使用することができるが、製作に夢中になると忘れてしまうことがあるため、言葉掛け等の支援が必要である。活動をはっきりさせることで集中して製作に取り組むことができる。	音声言語に比べ、文字（平仮名、片仮名、簡単な漢字、アルファベット）の理解が高い。初めての学習課題の際には、視覚情報や、教師のモデル提示なども有効である。活動の流れが事前に理解できると、積極的に活動できる。糸のほつれなど気になるものがあると、衝動的な行動をとることがあるが、事前に約束をしておくことで、行動を調整できるようになってきた。
身の回りの現象に対して、「なぜ？」を考えることは少ないが、怒る人のイラストのこめかみにある血管に注目して、「これは何。なんでこうなっているの。」と自分が疑問に感じていることについて質問することができる。これまでの経験から、熱いや冷たいなどにも敏感で、湯気やコップに付いた水滴から、熱いや冷たいを予測することができる。	完成の見本や製作の手順を視覚的に示すことで、集中して作業に取り組むことができる。見本に近いものを作ろうという意識が高く、うまくいかないときは「どうすればいいの？」と自ら質問することができる。うまく作りたいという意識が強すぎると、道具の安全な使用に意識が向かなくなることがあるため、使用方法等の再確認が必要である。	教師の簡単な指示を理解し、指示に従って行動することができる。他のことに気持ちが向いていて、教師の言葉がなかなか届かないときは、視覚情報を用いて伝えることが有効である。自分で決めたスケジュールを変更することが難しいこともあるが、事前に繰り返し確認をしておくことで、周りに合わせて学習に取り組むことができる。
学級で行ったお疲れ様会の際に、冷たい飲み物の入ったコップの外側に付いた水滴を見て、「なぜだろう？」と考え、「お湯を入れたコップはどうなるかな？」とさまざまな現象を比較して考えようとする姿が見られた。「なぜ？」という疑問に対し、「なぜなら～だからだ。」という考えを教師や友達に説明することができる。	自分から分からないことを質問することなどに課題はあるが、手順表や教師の師範などを見ることで、安全に道具を使用して作業に取り組むことができる。製品の細かい部分の違いに気付く、次回どのようにすればもっといい製品が作れるかを考えて製品作りに取り組むことができる。非常に集中して活動に取り組むことができる。	体験的なもの、体を動かして学ぶものに対する興味・関心が高く、「やってみたい！」という気持ちをもつことが多い。中学校3年生程度の漢字、中学2年生程度の英語を理解している。音声言語でのコミュニケーションをとることができる。教師のモデルがあると、人や場に応じた言葉遣いをするができる。
友達の「なぜ水が付いているのかな。」の発言を聞いて、「コップが濡れていますね。」と興味を示す姿が見られた。身の回りに起こる様々な現象について、「なぜ？」を考えることは難しいが、熱いお湯と冷たい水の入ったコップに起こっている現象の違いに気付くことはできた。	他の人に比べて時間は掛かるが、任された工程に対し、非常に丁寧にに取り組むことができる。危険度の低い道具でも、初めてや慣れない道具を使用する際に不安な様子を見せるが、慣れるまで教師と一緒に取り組むことで、道具を正しく安全に使うことができる。疲れやすいため、時折休憩をはさむことで、集中して製作活動に取り組むことができる。	平仮名の読み書きや片仮名の読みが確実にできる。現在は漢字で書くことへの関心が高まってきている。自分でしたい思いが強く、他人のやり方を受け入れられなかったり、分からないときにどうすればいいかを自分から尋ねることが難しかったりすることがあるため、教師が手本を示したり、3工程程度までの手順表を準備したりすることが有効である。
身の回りに起こる様々な現象に対して、「なぜ？」を感じることは少ないが、目に見える現象や触って分かる変化について、選択肢を用意することで、正しい方を選んで説明することができる。熱いものは危ないと知っており、湯気が出ていたり、火が付いていたりするものには近づかないなどの判断ができる。	製作活動への意欲は高いが、完成に向けて自分流で取り組むことがあるため、手順表を提示し工程を確認しながら取り組む必要がある。自分が危険と判断した道具には近づきたがらないが、危険な道具でも慣れると安全面がおろそかになるため、安全な使用についての再確認や教師による見守りが必要である。	文字の読み書きについては、平仮名や片仮名をほぼ習得しているが、特殊音節を含む単語の表記に課題が見られる。漢字への興味・関心が高まってきており、身近な漢字を書こうとしたり、読もうとしたりする。 友達の様子や視覚的な情報を手掛かりにして、学習活動や内容を理解し、進んで取り組むことができる。
身の回りに起こる様々な現象に対して、教師が疑問を示すことで「なぜ？」と考えようすることができる。また、論理的に考えることは難しいが、自分なりに考えたことを「なぜなら～だから。」と教師や友達に説明することもできる。熱い、冷たいや膨らむ、しぼむなど目に見える現象を言葉で説明することができる。	製作活動への意欲が非常に高いが、「上手に作らないと。」や「早く作らないと。」などの焦りの気持ちが芽生え、と、丁寧に製作できないこともあるため、タイムタイマー等で時間的な見通しをもつことができるようにし、無理のない出来高目標を立てたりする必要がある。教師の見本をよく見て、安全に道具を使用することができる。	発音がやや不明瞭だが、音声言語で自分の思いを積極的に伝えることができる。苦手なことや自分の課題への自己意識をもつことができていく。他者からの評価を気にする様子もあるが、苦手なことにも挑戦することができる。じっくり考えながら話したり、伝えたりすることに課題はあるが、主語と述語の関係を整理することで、会話が上手になってきた。

3 単元目標 ※ 授業計画シート参照

4 指導計画 ※ 授業計画シート参照

5 本時の実際 (16/19)

(1) 全体目標

幼児のことを考えながら、改良したおもちゃを実際に使用し遊び方を工夫する活動を通して、
幼児にとって分かりやすい遊び方の紹介方法について話し合い、発表することができる。

【理科、職業・家庭(家庭分野)】

(2) 個人目標

生徒	個人目標
U. K o h (3年, 男)	改良したおもちゃで実際に遊ぶことで、手やお湯でペットボトルを温めた場合やペットボトルの大きさによるしゃぼん玉の膨らみ方の違いに気付いたり、幼児の好きなキャラクターを選び、幼児がおもちゃに関心を高めたりするための意見を伝えることができる。
U. K o t (3年, 男)	改良したおもちゃで実際に遊ぶことで、栓をより早く飛ばす方法に気付いたり、選択肢を基に幼児の好きなキャラクターを選ぶなどして、幼児がおもちゃに興味をもち、取り組みやすいような意見を伝えたりすることができる。
H. S (3年, 男)	いろいろな条件を試しながら遊びを繰り返すことで、より早く栓を飛ばす方法に気付き、どうすれば幼児と楽しく関われるかを友達に提案しながら、幼児にとって分かりやすい遊び方を発表することができる。
U. M (3年, 女)	改良したおもちゃで遊ぶことで、ペットボトルの大きさや温める温度など、より大きなしゃぼん玉を作る方法に気付いたり、アンケートの結果から、幼児の好きなキャラクターを選んだりして、紹介の方法を考え、意見を伝えることができる。
U. K i (3年, 女)	繰り返し改良したおもちゃで遊ぶことで、より早く飛ばすための方法に気付いたり、アンケート結果を見返すことで、幼児の好きなキャラクターや動物をおもちゃに付けたりするなど、幼児にとって分かりやすい方法を考えることができる。
H. Y (3年, 女)	改良したおもちゃで繰り返し遊ぶことで、ペットボトルの大きさなど条件を整理してしゃぼん玉を大きく膨らませる方法に気付き提案したり、これまでの経験を振り返ることで幼児への話し方や見せ方についての方法を友達に提案したりしながら、その方法を発表することができる。

(3) 指導及び支援に当たって

<これまでの学習の様子と本時の学習活動の概要>

生徒たちは、前時までにグループに分かれて水や空気の状態の変化に関する簡単な実験を行い、幼児のためのおもちゃを製作してきた。その中で、水が冷やされると氷になり温められると沸騰したり、水蒸気が変わったりすることや、空気が温められると体積が増えることなどを学習してきた。また、地域の保育施設について調べたり、実際に関わったりすることで、幼児の特徴に気づき、実際に関わる際も少し慣れた様子が見られるようになってきている。

そこで本時では、再度作ったおもちゃで遊び、幼児に分かりやすく伝えるための方法や、幼児と一緒に楽しみながら関わるための遊び方を考えることができるようにしたい。

<導入>

- ・ 写真や動画を用いて、これまでの学習を振り返り、幼児と交流をするための学習であることを確認できるようにする。【基】 【人】
- ・ 本時の学習内容を意識できるように、上記のことを踏まえ、めあてを教師と一緒に話し合いながら考え、決められるようにする。【基】 【主】 【思】

<展開>

- ・ 3人ずつのグループに分けることで、生徒同士で協力しながら準備をしたり、遊んだりできるようにする。【基】 【主】 【思】 【人】
- ・ 2つのグループそれぞれにCTとSTが加わり、選択肢を提示したり、出た意見をより分かりやすく代弁したりするような支援を行い、H.SとH.Yを中心とした話し合い活動ができるようにする。【基】 【思】 【人】
- ・ U.K o hやU.K o tには、実際に遊んだところを写真に撮って示したり、しゃぼん玉の大きさや栓が飛ぶまでの時間を数値化して表したりするなど、視覚的な支援を行うようにする。また、話し合い活動の際は選択肢を準備することで自分の意見を出しやすいようにする。【基】 【主】 【思】 【人】
- ・ U.MやU.K iには、遊び方の手順表を示し、友達と協力しながら実験に必要なものを準備したり、実験を行ったりすることができるようにする。【基】 【主】 【人】
- ・ U.K iには、話し合いの際にはミニホワイトボードを準備し、自分の意見を書いて伝えられるようにする。【基】 【主】 【思】
- ・ U.Mには、話し合いの際には選択肢を準備するとともに、近くにSTがいて生徒の自発的な意見を待ったり、ヒントを出したりすることで、安心して自分の意見を出すことができるようにする。【基】 【主】 【思】
- ・ H.Sには、遊ぶ際の記録表に、結果だけではなく、これまで学んできたことを整理したワークシートを手掛かりにしながら、なぜそのようになったかを記述する欄を設け、予想したことや考えたことを書くようにし、科学的な考え方も育てられるように支援する。【基】 【思】
- ・ H.Sには、話し合いの進行ができるように言葉掛けを行うとともに、これまでの学習で学んできた幼児の特徴や自分たちの接し方の課題などをまとめたワークシートを準備することで、幼児への伝え方や接し方の工夫を考え発表することができるようにする。【基】 【思】 【人】
- ・ H.Yには、遊ぶ際に、できたしゃぼん玉の個数や大きさなどの結果を記述する欄を設け、友達の結果も含めて整理できるようにする。【基】 【思】 【人】
- ・ H.Yには、これまでの学習で学んできた幼児の特徴や好きなものなどをまとめた表を準備することで、幼児への伝え方や接し方の工夫を考え、発表することができるようにする。【基】 【思】 【人】

<終末>

- ・ U.K o hやU.K o tには、本時の活動の様子を写真で提示したり、結果をまとめたものを提示したりすることで、実験で分かったことや幼児と関わる際の工夫について気付いたことを選び、発表できるようにする。【主】 【思】
- ・ U.MやU.K iには、幼児と関わる際の工夫について尋ね、話し合い活動でまとめられた中から選択して発表することができるようにする。【主】 【思】
- ・ H.SやH.Yには、実験の方法と幼児への伝え方という2点を示すことで、めあてと関連付けてまとめることができるようにする。【主】 【思】

<指導及び支援に係る配慮事項と中学部の生徒に育てたい資質・能力との関連>

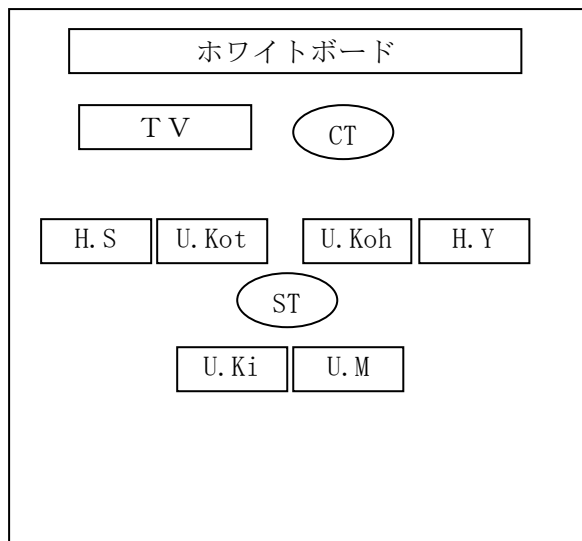
【基】	(基礎・基本) : 各教科等における知識や技能を身に付け、集団生活に必要な力を高める姿
【主】	(主体性) : 集団での自分の役割を理解し、身に付けた力を生活や学習に生かす姿
【思】	(思考・判断・表現) : 必要な情報を取捨選択し、集団の中で自分の考えを伝える姿
【人】	(人間関係) : 身近な集団の中で周囲の人と関わりながら協力したり、他者の考えに触れたりして互いの考えを認め合う姿

(4) 実際

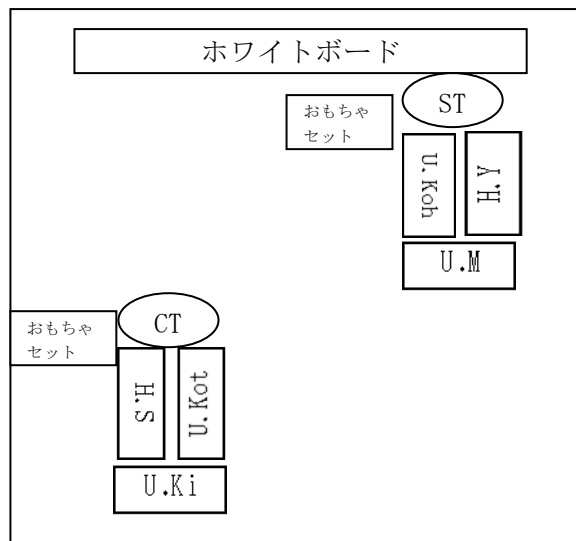
過程	主な学習活動	指導及び支援に当たって	資料・準備
導入 (10分)	1 始めの挨拶をする。 2 これまでの学習を思い出し、本時の学習について話し合う。 (1) 前時の学習内容を発表する。 (2) 本時の学習を話し合う。 幼児ともっと楽しく遊ぶにはどうすればいいかな？	- 視覚的に振り返ることができるように、TVを使って幼児の表情や動きが分かるような写真や動画を提示し、表情や心情カードを用いて、交流した時の幼児や自分の気持ちを考えることができるようにする。また、安全に取り組んでいた点に気付くことができるようにする。 - STは、U. K o hやU. K o tが注目できるように、事前にどんな視点で見ればいいのかを示したりする。	- TV - タブレット端末 - 表情・心情カード
展開 (30分)	3 幼児と一緒に楽しく遊ぶための方法や紹介の仕方を考える。 空気鉄砲チーム (CT) U. K o t, H. S, U. K i, しゃぼん玉チーム (ST) U. K o h, U. M, H. Y, (1) グループに分かれておもちゃの準備をする。 (2) 幼児にとってより分かりやすい遊び方を考えながら遊ぶ。 空気鉄砲チーム：より早く しゃぼん玉チーム：より大きく (3) アンケート結果を見直し、幼児の好きなものを確認し、幼児の好きなキャラクター等のイラストやシールをおもちゃに貼る。 (4) グループごとに、幼児と楽しく遊ぶためのポイントを収めた動画を撮る。 (5) おもちゃ等を片付ける。	- 前回の交流を振り返ることで、今回も紹介方法として動画を用いることを確認できるようにする。 - チームごとに準備物セット表を用いることで、友達同士で協力しながら準備を行うことができるようにする。 - 前時のワークシート又は板書を撮った写真を示し、前時までに考えた遊び方や関わり方の工夫を確認できるようにする。 H. Sには、ペットボトルと瓶による材質の違いや、大きさの違いによる、栓が飛ぶまでのおおよその時間をメモできるような記録用紙を配布し、結果や自分の考え等も記入できるようにする。 H. Yには、ペットボトルの大きさや温め方の違い（お湯と手）によるしゃぼん玉の膨らみ方の違いをメモできる記録用紙を配布しておく。 - チーム内で実験を実際に見せ合ったり、記録表を基にしたりすることで、分かりやすいものはどれか選択できるようにする。 - 幼児へのアンケート結果を表にして示し、好きなものが見て分かるようにする。 - 時間内に貼ることができるようにシールを準備し、はがしにくい場合は教師で支援を行う。ゴミが気になる生徒もいることから、近くにゴミ箱を配置し、はがしたテープ等はすぐに捨てられるようにする。 - 振り返りに使用するために、おもちゃで安全に楽しく遊ぶ様子を動画に撮っておく。 - お湯は大きめのバケツに入れてから流しに捨てる。準備の際に使用した入れ物を使い、元の状態に片付けられるようにする。	- チーム表 - 準備物セット表 - 遊び方手順表 - 準備物セット ペットボトル 栓 お湯(ポット) 洗面器 雑巾 新聞紙 ペットボトル しゃぼん液 お湯(ポット) ストロー 洗面器 雑巾 新聞紙 - 温度計 - 記録用紙 - 前時までのワークシート - アンケート結果 - キャラクターシール - ゴミ箱 - タブレット端末 - バケツ - 準備物セット
終末 (10分)	4 本時の学習を振り返る。 (1) 分かったことや気付いたことをまとめる。 (2) 発表する。 5 次回の学習を確認する。 6 終わりの挨拶をする。	- 何を振り返るかを確認するため再度、めあてを確認する。 - 各グループで実験の動画を撮り、お互いに見せ合い、実際に安全に取り組めるかどうか確認し合えるようにする。 - 生徒の発表を板書で示し、学んだことを整理して伝えられるようにする。 - 次回の学習や交流の時間を学習計画表で確認し、見通しがもてるようにする。	- TV - タブレット端末 - 学習計画表

(5) 場の設定

【導入・終末】



【展開】



(6) 教材・教具

表情・心情カード	動画, 写真	チーム表
実際の交流で、写真や動画からその時の気持ちを振り返る際、自分の気持ちを表す際の選択肢として使用する。幼児の気持ちを考え、発表する際は、幼児のイラストの入った表情・心情カードを用いる。	導入場面では、交流相手を確認したり、遊んだことや楽しかったことを振り返ったりするツールとして、展開場面では、実際に遊んでいる様子から、より楽しくおもちゃで遊ぶ方法を考えるために用いる。	自分の担当するおもちゃを理解し準備するものを判断するために用いたり、同じグループのメンバーを確認したりするための表。
準備物セット	記録用紙	生単ファイル
遊ぶ際に使用する道具等をまとめてセットしておき、自分たちで準備できるようにする。各グループにそれぞれ用意する。	H.S と H.Y が使用する。ペットボトルの大きさや温め方など、遊びながら得た結果や考えたことを記録するために用いる。	これまで学習してきた内容を記したワークシートがとじてある。前時までの学習を振り返る際に使用する。

(7) 評価

ア 全体目標

幼児のことを考えながら、改良したおもちゃを実際に使用し遊び方を工夫する活動を通して、
幼児にとって分かりやすい遊び方の紹介方法について話し合い、発表することができたか。

【理科、職業・家庭（家庭分野）】

イ 個人目標

生徒	個人目標	生徒の 学びの姿	具体的な手立て	手立ての 評価
U. K o h (3年, 男)	改良したおもちゃで実際に遊ぶことで、手やお湯でペットボトルを温めた場合やペットボトルの大きさによるしゃぼん玉の膨らみ方の違いに気付いたり、幼児の好きな動物やキャラクターを選び、幼児がおもちゃに関心を高めたりするための意見を伝えることができたか。		実際におもちゃを扱うことは、おもちゃの動作の違いに気付くために有効だったか。	
			選択肢は、友達に自分の意見を伝えるなど、おもちゃの紹介方法を話し合うために有効だったか。	
U. K o t (3年, 男)	改良したおもちゃで実際に遊ぶことで、栓をより早く飛ばす方法に気付いたり、選択肢を基に幼児の好きなキャラクターを選ぶなどして、幼児がおもちゃに興味をもち、取り組みやすいような意見を伝えたりすることができたか。		材質や大きさの違う空気鉄砲を扱うことは、より早く飛ばす方法等を考えるために有効だったか。	
			選択肢を提示することは、幼児にとって関心を高めるおもちゃにするために有効だったか。	
H. S (3年, 男)	いろいろな条件を試しながら遊びを繰り返すことで、より早く栓を飛ばす方法に気付く、どうすれば幼児と楽しく関われるかを友達に提案しながら、幼児にとって分かりやすい遊び方を発表することができたか。		条件を整理し、考えをまとめるためのワークシートや、科学的な内容についてこれまでの内容をまとめたものは、幼児に楽しくて分かりやすく遊び方を伝えるための方法を考え、発表するのに有効だったか。	
U. M (3年, 女)	改良したおもちゃで遊ぶことで、ペットボトルの大きさや温め方の違いなど、より大きなしゃぼん玉を作る方法に気付いたり、アンケートの結果から、幼児の好きなキャラクターを選んだりして、紹介の方法を考え、意見を伝えることができたか。		温め方やペットボトルの大きさを変えてしゃぼん玉を作ることは、より大きなしゃぼん玉を作ることを考えるのに有効だったか。	
			幼児の特徴やアンケート結果を見直すことは、幼児におもちゃの楽しさを伝えるために有効であったか。	
U. K i (3年, 女)	繰り返し改良したおもちゃで遊ぶことで、より早く飛ばすための方法に気付いたり、アンケート結果を見返すことで、幼児の好きなキャラクターや動物をおもちゃに付けたりするなど、幼児にとって分かりやすい方法を考えることができたか。		材質や大きさを変えた空気鉄砲を扱うことは、より早く栓を飛ばすための方法に気付くために有効だったか。	
			アンケート結果から、幼児の好きな物を選ぶ活動は、幼児のことを考え、分かりやすく紹介するために有効だったか。	
H. Y (3年, 女)	改良したおもちゃで繰り返し遊ぶことで、ペットボトルの大きさなど条件を整理してしゃぼん玉を大きく膨らませる方法に気付く提案したり、これまでの経験を振り返ることで幼児への話し方や見せ方についての方法を友達に提案したりしながら、その方法を発表することができたか。		ペットボトルの大きさを変えて試すことは、おもちゃの遊び方が分かりやすくなる方法を考えるために有効だったか。	
			これまでの写真や動画は、幼児にとって分かりやすい遊び方について話し合うために有効だったか。	

